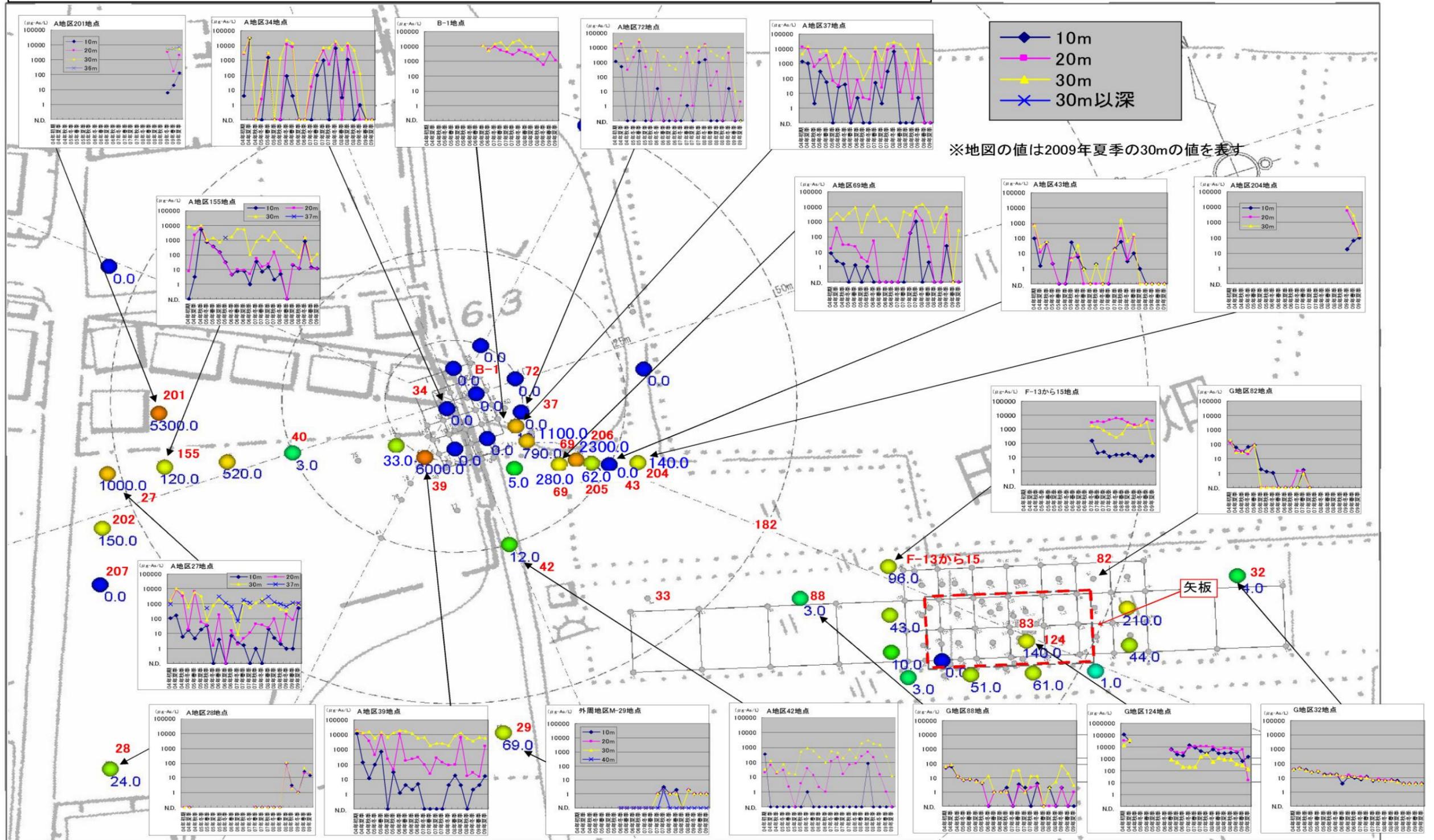


DPAAs濃度変化 A井戸周辺

単位 ($\mu\text{g-As/L}$)



②掘削調査地点付近

平成 21 年春季、掘削調査地点内では、深度 30m よりも、深度 10m の濃度が高い傾向は変わらないが、掘削地点内中央付近にある F-11（当初 No.83 地点の深度 20m）では 13.0mg-As/L（前回 10.0mg-As/L）となり、掘削調査地点全深度で最も濃度が高い。深度 10m の濃度は、掘削調査地点内北側の F-32 が 7.8mg-As/L と最も高く、また、掘削調査地点外縁の濃度は 0.1～1.9mg-As/L の範囲にある。

平成 21 年夏季では、深度 20m の濃度低下が著しく、F-3（当初 No.124）では 6.3→0.016mg-As/L、F-11（当初 No.83）では 13.3→0.026mg-As/L となっている。

深度 10m では、F-10（当初 No.83）で 1.0→0.31mg-As/L とやや濃度低下が見られるが、F-2（当初 No.124）で 0.62→1.05mg-As/L、F-32 で 7.8→4.4mg-As/L、F-5 で 1.9→1.0mg-As/L など、全体的には濃度低下が表れている状況ではない。

掘削調査地点外北側の F-13～F-15 では、平成 21 年春季、深度 20m で 5.2mg-As/L と、10m、30m と比較して濃度が最も高い傾向にあるが、引き続き夏季においても 3.9mg-As/L と高濃度で推移している。深度 30m では、春季から夏季にかけ 3.9→0.096mg-As/L と、濃度が低下し、同地点におけるこれまでの最低値を示した。

さらに、掘削調査地点の外縁に設置した F-23～F-30 では、掘削調査地点の東側（地下水流れの上流）に位置する F-30 で 0.21～0.25mg-As/L とやや濃度が高く、深度方向でも濃度に差異は少ない。また、春季・夏季においても濃度に大きな差はない。掘削調査地点の南側においては、春季の F-26 の深度 30m の 0.067（前回 0.1mg-As/L）と大きな濃度変化はない。掘削調査地点の西側（地下水流れの下流）の F-23 では、冬季に 0.23～0.25mg-As/L とやや濃度が上昇したが、春季・夏季においては、最大 0.076mg-As/L とやや濃度が低下している。

DPAAs 濃度変化 掘削調査地点周辺 単位 ($\mu\text{g-As/L}$)

※地図の値は2009年夏季の10mの値を表す

